吉井勇歌碑巡り

勇は昭和９年から昭和12年まで、猪野々の地に隠棲していました。勇が猪野々の自然、地域の人々を気に入って選んだ場所ですが、猪野々の人々も勇を気に入って歓迎しました。

勇が帰ってからも、猪野々の人々は勇のことを忘れられず、歌碑建立に向けて動き出します。

平成６年に地域の方々によって猪野々地区に13基と永瀬地区に２基の歌碑が建てられました。歌碑の石は、根須の小松石材から寄付されたもので、歌は勇が猪野々にいた頃に詠んだ約２３００首のうちから、猪野々の各班で選び、班長会で決定しました。この歌碑を全部廻ると猪野々を一周することができます。

ぜひ吉井勇の歌碑巡りをしていただき、勇の詠んだ歌を通して猪野々の自然美や風景、山の暮らし、地域の方のおもてなしなどを感じて楽しんでください。

所要時間：半日程度※車移動含む

⑮永瀬
茄子を焼き山酒酌みてほのぼのと
遠びと思へば夕餉たのしも

⑭永瀬
物部川鎖渡（くさりわたし）舟の音冴えて
たそがれ時となりにけらしも

⑬奈呂上
山ふかき猪野々の里の星まつり
芋の廣葉に飯たてまつる

⑫引立
友よ酔はば杯を置き目を閉ぢて
しばしは聴きね物部川音を

⑪松床
ふたたびは世に出でじなど思ひつつ
韮生の峡にひとり籠らふ

⑩猪野曽
忘れめや土佐の韮生の峡ふかき
猪野々の里のありあけの月

⑨大奈呂
大土佐の御在所山の朝雲は
もそろもそろとゆきて親しき

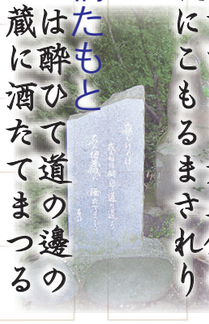
⑧大久保
にごり酒破竹虎杖（いたどり）乾ざかな
ありてたのしも山の夕餉も

⑥西浦
旅のうれひいよいよ深くなるままに
土佐の韮生の山峡（かい）に来ぬ

⑦柚ノ木
瀧へゆく石高みちのたそがれを
柚の木の童子ひとり登り来

⑤初田
ひと夜寝てあした目覚めのすがしさや
物部の渓を雲湧きのぼる

④奈呂下・郵便局前
物部川山のはざまの風さむみ
精霊蜻蛉飛びて日暮るる



③奈呂下・神賀橋たもと
寂しければ或る日は酔ひて道の邊の
石の地蔵に酒たてまつる

②奈呂下・明法寺
いつはりの世に出でむより大土佐の
韮生の峡にこもるまされり

①奈路下・猪野々小学校跡地
韮生路の秋深うしてさむざむと
山風ぞふく河風ぞふく